

経時的再循環率測定機能の使用経験

東京ネクスト内科・透析クリニック

石川 健二

【目的】

日機装社製透析装置 DBB-100NX および DCS-100NX では計 5 回の再循環率(以下、RR)測定が実施でき、また透析通信システムと連動させることで 1 回だけ自動測定が可能となる。しかし、残り 4 回は手動測定せざるを得なかったため、当院では自動測定の 1 回(治療開始 10 分後)だけをルーティン検査としていた。

今回のバージョンアップで任意の時間で自動測定が可能となったため、その有用性を検討した。

【方法】

当院外来透析患者 26 名に対し、1 治療当たり計 5 回の RR 測定を行った。その実施したタイミングは従来の 10 分後、全治療時間の 1/4・2/4・3/4 経過時点、終了 10 分前とした。

【結果・考察】

- 経時的に RR が検出されない症例より検出される方が多く、2 回目以降に検出される症例も数多く存在した。
- 治療中に検出される値のばらつきは大きく、一貫性はないように思われた。
- 穿刺位置や治療中の体位、測定精度等の影響を受けや

【結語】

いまだ改善の余地はあるが、経時的再循環率測定機能は有用と思われた。

・長時間行っても再循環率の変動は見られないことが確認できたことで長時間透析を行っても再循環に影響は受けにくいと考えられる。

・再循環率が見られた患者に対して、その後の再循環率の経過が下がっているので体動による変化だと考えられる。

・再循環率測定を計 5 回測定したことにより開始 10 分後以外で検出されることが認められた。この結果に基づき有用性はあったと考える。

今後の課題として

1、循環血液量の減少について血圧の低下も考えられるが血圧低下が見られていない場合は再循環が検出される可能性も考えられる。よって、ブラッドボリューム計の低下が著し

い患者に対しては有用性があるのか検討していく。

2、HD02 を用いて血流量が悪い患者に有用性はあるのか検討していく。